

# 輝石

## ～追～

洗足学園高等学校 高校2年 学年通信 2020.04.27 発行  
(活動メモより特別号②)

オンライン授業の3週目に入りました。ご家庭のサポートによって、概ね順調に進められていること、感謝申し上げます。きっと後の世の人に語られるであろう、苦しい日々が続きます。このような時間に何を感じ、何を考えたか、生徒たちが数年後、数十年後に振り返ってもらえればと思い、活動メモを続けています。今号も前号に引き続き、一部を紹介いたします。

4月20日(月) 『4コマ漫画から考えたこと』

先生からの問い

高2B T.E

「政治家は偉いんだからそれくらい考えてるはずさ!!」。4コマ目のこのセリフがとても気になった。最近、家族でマスク、コロナの話題がでた時も同ような発言が出たからだ。布マスク配布の話題のとき、父がWHOの文書の一部を見せてきた。そこには、「布(コットンやガーゼ)マスクはいかなる状況でも推奨されない」と英語の記載があった。なんで推奨されないものを配るのだろう?今求められている対策だったのだろうか?まあ、政治家なんだから、他の問題も含めて考えたんじゃない?…そんな会話が合った。だが、今この漫画を通して、同ような発言を客観的に見て、「政治家は偉いんだから」という考えに疑問を持った。なんだか、「任せておけば政治は政治家がうまくやってくれるはずだから(私達が希望していることは自ずとわかっているはず)」というような雰囲気を感じる。私達は政治に対し、希望や要望を持っていても、それを政治家がわかっている「はず」と、伝えることが十分にできていない(もしくは、伝えていても政治家に届いていない)のではないかと。私の家とこの漫画だけなのかも知れないが、政治と私達の間にギャップができてしまっているのではないかと考えた。これから先の政治の動きで、よりギャップが広がったり、万が一にコロナの動きで「マスク経済」なんてものが実現しないといいなと思う。



高2F H.A

亀の甲より年の功というのは、亀の甲羅の珍しい育ち方や進化の仕組みにもまして、その仕組みを解明した、長年の人間の研究の功績のほうが素晴らしいということである。



亀の甲羅は、肋骨が背骨にくっついて板のようになったものである。甲羅のない古代の亀の化石が発見されたことで、肋骨が拡大して甲羅に進化したということが突き止められている。脊椎動物の中で肩甲骨よりも肋骨のほうが体の背に近く配置されているのは亀だけだ。しかも、卵の中で育ち始めて間もない頃は肋骨の上にあった肩甲骨が、体壁が内側に折り込まれることによって肋骨の下に引き込まれる、実に不思議な育ち方をする。しかし、この事実を解明したのはあくまで人間である。今生きている亀は知る由もない。



一部の人間は、自分とはほとんど関わりのない生き物の研究に人生をかけ、その研究意欲と執念には、環境に適応するため工夫をこらし、独自の進化をしてきた亀にまさるものがある。よって、亀の不思議な進化そのものよりも、進化の仕組みを解明した人間の努力のほうが素晴らしいということではないか。

[bbc.com](http://bbc.com) BBC ニュース 甲羅のないカメの化石を発見

[gendai.ismedia.jp](http://gendai.ismedia.jp) 理化学研究所 記事 カメの甲羅はどうやってできるか知っていますか

高2A T.H

女性は結婚によって、男性の家に「入る」、男性を様々な面で支えなければならないといった意識が日本には根付いていると思う。実際に、平成28年度に発表された厚生労働省の人口動態統計特殊報告では、結婚時に夫の姓を選択した夫婦の割合は95%を超えていると示されている。しかし私は、日本の男女平等社会を目指す中で、夫婦同姓を強いる必要はないのではないかと考える。女性にも男性にもこれまで築いたキャリアがあって、結婚によってそれを壊してはいけないと思う。そして、夫婦別姓についての考え方は人それぞれであり、個人で決められるものではなく、パートナーによっても自分の考え方は変化すると思うので、夫婦同姓、別姓のメリットやデメリットをよく理解した上で、夫婦で話し合って選択することができるような制度が必要だと考える。

高2D N.M

私は選択的夫婦別姓に賛成だ。現在の法律では、事実婚は法律婚から除外されている。そのため、事実婚では子供が「婚外子」となってしまう、父親からの扶養や相続を受ける権利がなかったり、延命治療などのパートナーの重大な意思決定ができないなどの難点が多くある。法律婚ではない事実婚をあえて選択する理由は「法律に縛られたくない」「婚姻制度に違和感がある」などの主張や「キャリアのため」など様々だ。私はこれらの考えを「新たな価値観の1つ」として捉えるべ

きだ思う。そして、「事実婚」を「法律婚」として認め、法律婚と同等の権利をパートナーや子供に対して持てるようにするべきだと思う。

#### 4月23日(木) 『子どもの肖像権 あなたはどう考えますか』 I先生からの問い

高2D K.M

賛成派の人の意見としては、写真の共有範囲をきちんと設定すれば心配ない、遠くに住んでいる友人や家族の子供は中々合う機会が無いため、近況報告として重宝するという意見などがある。一方で反対派の人の意見としては、子供の人権侵害になるということや、投稿した子供の写真が原因で犯罪の標的にされ、写真やGPSの情報を使って住所や通っている学校を見つけ出されて誘拐などの事件に巻き込まれるのを恐れたり、見る側が自慢に見えて不快に思うことがあるという意見などがある。私は、不特定多数の人に顔を晒したりすることになり、事件に巻き込まれる可能性が高くなる危険があるので、SNSにアップするのは反対である。子供の近況報告などはメールのやり取りをすれば良いと思う。

高2F F.A

現代はSNSがどんどん発達し、誰でも簡単に自分の思ったことや写真など、様々なことをネット上に投稿することができる。その一つとして、親が自分の子供の写真をSNSにあげる事がある。調査では日本人の4人に1人は、自分の子どもの写真をSNSにモザイク無しで投稿した経験があるという。しかもそのうち子どもに事前に確認を取っているのは、わずか3割しかないそうだ。確かに自分の子どもは可愛く見え、他の人に見てもらいたいという親の気持ちはわかる。しかし、子ども側からみたらどうだろうか。子どもがまだ小さくて、投稿されることがどういう意味をもつのかよくわからないうちはいいかもしれないが、ある程度大きくなり、後で親が自分の写真を勝手にあげていたと知ったら恥ずかしいと思うかもしれない。もしその写真を友だちに見られたら、からかわれるかもしれない。またデジタルタトゥーという言葉が有るように、ネットに一度でもあげたものは絶対に消えることはない。海外では、ネットにアップされている他人の子どもの写真を、自分の子どものように再投稿する、デジタル誘拐のような事例もあるそうだ。また、肖像権というものもある。いくら自分の子どもといえど、子どもの顔は子どものものだ。親が自分の子どもを、そんな気はないのだろうがつい自分の所有物のように気軽にネットに投稿してしまいがちだが、子どもにも肖像権があり、プライバシーもあるので、親しい間柄であっても人権に配慮しなくてはいけないと思った。

#### 4月24日(金) 『語られざる哲学 あなたにとっての美しい貝』 N先生からの問い

三木清は人生を砂浜で貝を拾うことに喩えている。人は皆、広い砂浜で、めいめいに与えられた小さい籠を持ちながら一生懸命に貝を拾ってその中へ投げ込む。その拾い上げ方は人によって違う。無意識的に拾い上げたり、意識的に拾い上げたり。ある人は習慣的に無気力に、ある人は快活に活発に働く。ある人は歌いながら、ある人は泣きながら。ある人は戯れるように、またある人は真面目に集めている。

この砂浜の彼方に大きな海がある。それに気づいている人もいれば気づいていない人もいる。籠の中には次第に貝が満ちてくるが、何かの機会に、ふと籠の中を点検する。すると、かつての美しいと疑いもしなかった貝が少しも美しいものでは

ないということに気づき、愕然とする。と、その時、海は破壊的な大波で人をひとたまりもなく深い闇の中に連れ去ってしまう。

## 高 2A O.H

広い砂浜と貝：人の生きている世界のこと。その中で人生の選択肢である貝がたくさん落ちていて、ほしい貝が見つからないこともあれば、数が少なくて手に入れられる人が限られている貝もある。

小さい籠大きな籠：ひとりひとりの人生そのもののこと。寿命が長くて籠が大きいたくさんの貝を集められるひともいれば短くて少ししか集められない人もいる。また、裕福で大きな籠を買える人もいれば貧乏で小さな籠しか買えない人もいる。籠の大きさによって入る貝殻の数、つまり人生の選択肢の数は変わる。

破壊的な大波：波は貝を、時には人までを流し去ってしまう「失望」である。きれいな景色を見ようと海に近づきたくさん貝を拾った人ほど、流されたときに失うものは多い。波が荒くなり襲ってくる予兆があるものもあれば、なんの前兆もなくある日突然襲ってきてすべてを闇に包んでしまうものもある。

私が小さい頃きれいだと思って拾っていた貝は、「みんなと同じ」貝だった。友達が持っている貝、家族が持っている貝、拾いなさいと言われた貝。自分が持っていない貝のほうが美しく見えて、友達と一緒に一緒に貝を拾っていた。今振り返ってみると、一番大切な貝は、自分で一生懸命探して努力して得た貝だと思う。周りがそれを見てきれいだと思わなくても、見る目がないと言われても、自分が「これがほしい」と思って拾った貝だけはすべて美しく見える。貝そのものがみんなが欲しがると、誰から見ても美しいようなものであっても、自分にとっての特別な貝でなかったら、波に流されたと同時にその貝は消えてしまう。でももし自分にとって特別で一生懸命探して拾った貝は、流されてしまったとしてもずっと自分の記憶に残り新しい貝を拾うための糧になってくれると思う。今は私は、ときには寄り道して珍しい貝を拾ってみたり少し立ち止まってみたりしながらも、自分だけの特別な貝を探しながら歩いていきたいと思う。

## 高 2C H.R

「広い砂浜」「小さい籠」「大きな海」「破壊的な大波」「貝」とは  
私は広い砂浜は社会、小さい籠は自分に残された時間、大きな海は自分に待ち受けている運命、破壊的な大波は死、そして貝は美しいものを表していると考える。

私にとっての今美しいと思って「貝」とは、人と人との繋がりである。いろんな人と関わり色々な意見を聞くことによって今までとは違った価値観を知ったり自分の人生の中で大きな影響を受ける事もできる。お金には変えられない一番美しい物だと考える。そして私の中でのかつては美しいと思っていたけれど今は少しも美しいものではない「貝」は集団の中に紛れ込む事である。日本人は集団の中に溶け込もうとする傾向が強くまたその集団とは少し違う人は変わった人として見なされる事が多い。私も少し前までは周りの人達と同じことをやってみたり、同じような服装をしてみたり、その集団に溶け込もうとしていたがようやくそれが間違っているということに気付くことが出来た。集団に溶け込もうとして自分自身を変えることは個性を捨てることになり本当に心から楽しんだり幸せになったりすることはできないと考える。その為私はそのような貝は拾わないことを決める。

高 2E S.R

「広い砂浜」は人生の時間の流れ、「小さい籠」は経験を貯めたもの、「大きな海」は人生における変化、「貝」は経験のたとえだと思います。なぜなら、人々は人生の流れの中で、経験を重ねていくからです。その経験をどう受け取るかは人それぞれで、それをどのように見るかも人それぞれだからです。そして、かつて美しいと思っていた経験が美しくなくなったと感じたら、価値観が変わった、つまり自分に変化が訪れたことを意味すると思います。

私が今美しいと思っている「貝」は、中3のときにオーストラリアのメルボルン大学に2週間行った経験です。なぜなら、そこでいろいろな人に出会って、自分の考え方や人との接し方について考えさせられたからです。かつては美しいと思っていたけれど今は少しも美しくない「貝」は、学校の課題をギリギリまで貯めて期限直前に急いで仕上げた経験です。少し前までは急いで課題を終わらせられていたこともそれなりに楽しかったなと感じていたのですが、今では大学受験に向けてやるべきことは決まっていると納得したので、課題をこなすことを先延ばしにする意味がないと感じるようになりました。



4月25日(土) 『働くこと』とは

K先生からの問い

高 2A F.R

私は、まだ体験したことのない世界を求めて人は働くのだと思う。

小学生のとき、私は高校生とはキラキラしていて大人っぽいものだと思っていた。私が思い描く理想の高校生活のために中学受験のときは勉強した。働いているわけではないが、小学生のときの私はまだ体験したことのない世界を得るために努力していた。だけど、実際高校生になってみると意外と普通だった。毎日特に考えることもなく学校へ行き、部活をして、たまに辛いことがあったら悩んで、嬉しいことがあったら笑う。本当に当たり前すぎて、非日常を求めてしまうぐらい普通だった。でも、今となってみると写真を見返すとすごく笑顔で、自分でも数ヶ月前の部活をしていたころの自分は眩しいと感じる。だから気づいていないだけで、もしかしたら求めていたものを得ていたのかもしれない。この実際に体験しているときは普通の日常と感じてしまう「まだ体験したことのない世界」は、人々の想像から生まれ、努力の活動源になる。よく受験勉強をしていると、「志望校に通う自分を想像しろ」と言われるが、まさにこの想像の内容が「まだ体験したことのない世界」だ。

働くときも同じだと思うのだ。これが出来ればこんな世界が広がっていると信じて働き続ける。実際にその世界を得たときは気づかないのだけど、働くたびに今度こそは得ようとまた想像してそこに広がる世界を働く理由にする。

もしも今の外に一步も出ない、制限だらけの生活が死ぬまで続くと言われたら、私は損をした気分になると思う。あと少しの部活で得られたはずのもの、大学に行って得られたはずのもの、実際に働いて得られたはずのもの。体験したことはないけどおそらくそこに広がる世界のことを想像して、得られないことに落胆するのだ。このコロナの状況が続くことは、外で何も活動しないという点で「一生働く必要がない大金持ちの家に生まれて働かない状況」と同じだ。

私たちは想像をしながら生きている。経済的な理由もあるけど、それ以上にその想像の世界を得なければという気持ちが、私達を働くことへと繋がらせているのだ。

## 高 2B F.A

働いてお金を稼ぐこと。私は経験したことはないが、過酷で精神的にも身体的にも辛いことだと思う。お金を何もせずとも持っているとしたらどうだろう。いい意味で楽なのか。悪い意味で楽すぎるのか。果たしてどちらなのかはわからない。

働くとは、自分と社会を結びつけてくれるもの。社会とつながることで、一人では出会えない責任、プレッシャー、そして達成感が得られる。

私は運動部に所属しているが、中学 1 年生のとき特に何度もやめたいと思った。体力がなくてついていけないことなど日常で、毎日部活に緊張していた。正直、そんなに楽しくなかった。しかし辛い経験を乗り越えた同輩の存在は、部活に入らなければなかったし、試合での達成感や感動、自分の成長を感じることも多くあった。働くことも似ていると思う。責任はもちろん比べ物にならないが、がんばった分だけあとで結果がついてくる。そんな充実した職業を目指したい。

## 高 2C K.N

私は、「幸せ」を感じるために働くのだと思う。どんなに好きな仕事に就いたとしても、働いている中で辛いと感じることはあるだろう。しかし、苦しんだ分だけ、何かを達成した時に「幸せ」だと感じられると思う。また、仕事の中で「幸せ」を感じられなくても、苦しい時間があるからこそ自分の好きなことをしている時に「幸せ」を感じられるのだと思う。

私は勉強をしていて「なんで勉強するのか？勉強したくないな」とつねづね思う。だが、比較的勉強時間が少ない長期休みよりも、普段の学校生活の方が「幸せ」だと思う瞬間は多い。きっと毎日勉強をしているからこそ、テストで結果が出た時やテレビを見たり好きなことをしている時に「幸せ」を感じられるのだと思う。

社会人になっても、働いているからこそ「幸せ」を感じられる、メリハリのある人生を送りたい。

もし大金持ちの家に生まれていたら別に、働かなくても生きていける。つまり働くか働かないかを選択することが出来る。高校生も同じように考えられると思う。義務教育じゃないから学校に行くか行かないかは選択することが出来る。普段学校に行く時は、朝早く起きるのめんどくさい、勉強だるい、携帯いじりたい。そんなことを毎日思いながら生活していたりもする。しかし今の期間になって学校のありがたみをすごく感じている。家にいてできることなんて限られている。最初は朝いつもより少し長く寝てられる、少し夜更かししてもいい、少し携帯長くいじってもいい、見たかったテレビ見れる、やりたかったことが出来る、そんな風に考えていたが、飽きるのも時間の問題だった。1,2週間たてば、テレビは見尽くしてやりたいこともだいたいやって、携帯を見て面白いことなんてない。考えてみると、休校前はどんなにめんどくさくても、どんなに乗り気じゃなくても絶対学校を休まなかった。だからこそ、たまに学校から与えられる休日が嬉しかった。今はずっと家から出れない状況で自主学習をしてどうにかこうにかやりくりしなければいけない日々が続いていて、だからこそ、学校に行ける日々が羨ましく感じている。だから私は多分これ以降自分で選択できるとしたら、必ずやるということを選択すると思う。

たとえ大金持ちで働かなくてもいいとしても、働くことで休暇やお金の価値自体が上がる。それで、たまにそれを使うことでこそ、本当に楽しく生活できるんじゃないかなと思った。めんどくさい、辛いと思うことでも頑張り続けるほど、自分がやりたい、楽しいと思っていることをした時の喜びが増えるのではないかなと思う。



友だちに会ってお喋りしたりすることができないのはさびしいですね。でも毎日、一瞬でも、共通の「問い」を考えています。友達の感じたこと、考えたことから、今は自分の思考を深め、想像を広げていく時間にしていこう。そしていつかみんなで、対話しよう。